

ニスコラム



👉 ホームページも
のぞいてみてね♪

シン・国語力

ニスコ進学スクール平岡緑教室

こんにちは。ニスコ進学スクール平岡緑教室担当の成田です。2022 年度の衝撃的な入試からかなりの時間が経過しました。今になって改めて分析したところ、難易度が上がった要因が何なのか、そしてこれからどう対策していけば良いかなどが見えてきたので、今回は私なりにまとめて記事にしてみました。長文ですが、ご覧いただければ幸いです。

先日、2022 年度の公立高校入試における全道平均点が発表され、道内に衝撃が走りました。また、2023 年8月に実施された道コンも驚愕の平均点が発表されましたので、こちらも2022 年度との平均点とを比較してみましたので、詳細は下表をご覧ください。

【公立高校入試における全道平均点】

全道平均	国語	数学	社会	理科	英語	合計
2023年度	54.2	47.4	41.0	35.4	50.6	228.6
2022年度	70.0	47.6	52.9	54.6	55.2	280.3
平均点差	-15.8	-0.2	-11.9	-19.2	-4.6	-51.7

【8月道コンにおける全道平均点】

中3	国語	数学	社会	理科	英語	合計
2023年度	49.8	53.0	57.9	42.5	54.1	257.5
2022年度	70.1	49.1	55.9	53.1	52.4	280.9
平均点差	-20.3	3.9	2.0	-10.6	1.7	-23.4

中2	国語	数学	社会	理科	英語	合計
2023年度	45.5	53.5	51.1	53.0	51.4	254.6
2022年度	60.9	52.3	47.3	43.3	53.2	256.4
平均点差	-15.4	1.2	3.8	9.7	-1.8	-1.8

中1	国語	数学	社会	理科	英語	合計
2023年度	47.0	48.1	57.8	64.3	66.6	284.0
2022年度	60.9	54.2	56.4	58.2	59.9	289.9
平均点差	-13.9	-6.1	1.4	6.1	6.7	-5.9

どちらの結果にも共通して、理系科目の平均点の低さが目につくところかと思いますが、難易度が上がった真因はそこではありません。2021 年度より始まった『新傾向』と呼ばれる入試問題すべてに共通していることがあります。それこそが難易度が上がった真因であり、今回のタイトルにもある『国語力』なのです。読んで字の如く、『国語の力』だろうと思うかもしれませんが、そうではありません。文科省の定義する以下6つの領域から成る力、それが『国語力』です。



◆基本4領域◆

- ① 考える力
- ② 感じる力
- ③ 想像する力
- ④ 表す力

◆①～④の土台となる領域◆

- ⑤ 語彙力・文法等の知識
- ⑥ 経験則から成り立つ、教養・価値観・感性

例えば、中学受験や高校受験で、算数・数学の成績が伸び悩んでいる場合の原因を見ると、「問題文を理解できずうまく考えられない」「立式までたどり着けない」ということがよくあります。学校の教科書や塾の教材、テスト問題では、ほとんどの部分が文章で書かれているものです。これは『国語力』の中に内包されている『読解力』『論理的思考力』『解答力』を十分に養うことで、こうした問題に対する理解度が大きくアップするでしょう。社会や理科であればグラフから正しい情報を抜き出す力も必要になりますし、英語であれば和訳や英文作りにやはり知識・経験則が必要になり、それを表す力も必要となります。これらはすべて『国語力』であり、全教科に必須の力といえるでしょう。

以上のことから、近年の模試や入試で難易度が上がった具体的要因として、

① 文章量が増えたこと ② 表やグラフなどの情報量が増えたこと ③ 普段聞き慣れない語彙が多く出たこと

などが挙げられます。読解のスピード、情報の整理、さらにそれらを整理した上で、文章を構築する力など、様々な力＝『国語力』が必要となるため、全教科ともに平均点が劇的に下がったといえます。そして、非常に残酷ですが、これを読んでいるであろうお父様やお母様の世代の勉強法では、今の入試問題にはほぼ太刀打ちできないと断言します。

では、この『国語力』はどのように養い、どのように対策していけば良いのでしょうか。これはご家庭でも出来ることがあるので、まずは基本的な4つの対策方法を紹介させていただきます。

【勉強法1】活字を追う「体力」を養う

国語力を養うには、まず活字を読み続ける「体力」が必要です。映像や音楽は勝手に流れていくため、受動的でも情報が入ってきやすいもの。それに対して「活字を読む」という能動的活動は、自分から読まなければ先へ進みません。そこで、まずは読む活動を続ける体力が必要ということになるのです。読む体力を養うには、読書が最適です。文部科学省でも、読書は国語力を伸ばすために極めて重要であるとしています。ただし、いきなり難しい本や分厚い本に挑戦する必要はありませんし、物語に限定する必要もありません。理科や算数が好きな子どもは、物語に限らず伝記や自然科学の本もおすすめですし、社会であれば歴史を漫画に著したもので構いません。漫画も活字が書かれているので、十分に国語力を養うことができます。子ども自身に合ったレベルと量で、活字を読む体力を少しずつ養っていけば良いのです。

【勉強法2】知らない言葉を調べる

読書や日常生活の中で知らない言葉に出会ったら、必ず辞書などを使って意味を調べてください。知っている言葉が増えれば読める文章のレベルや幅が広がり、国語力強化に直結します。そうした言葉を使って子どもが自分の考えをまとめることにも役立ちます。読書後の感想を親子で伝え合ったり、ニュースなどで新しい情報を得た際にも、お子さまにとって知らない言葉があるかどうかを意識するとよいでしょう。「その言葉、どういう意味？」と尋ねられたら、お子さまが持っている紙の辞書やインターネットで使える辞書と一緒に調べてみてください。新しい言葉を覚える際は、文章の音読なども活用するのがおすすめ。日常の文章の中で音とともに覚えることで、その言葉を定着させやすくなります。

【勉強法3】小学校中学年～中学生は「読む・書く」の反復練習

国語力を強化するには、国語の知識を確実に身につけていくことが重要です。小学校中学年からは「読む・書く」にも重点的に取り組みましょう。「読む・書く」の基本的な学習方法は、問題集や作文などにくり返し取り組むこと。問題集では、漢字や言葉を覚えて読んだり書いたりする練習ができるとともに、長い文章を読んで設問に答える練習もできます。指示語の内容や筆者の意見を抜き出す問題、問われていることに対して文中の表現を用いて要約する問題などは、学校の成績向上にも役立つでしょう。学校のテストで間違えた問題も、解答・解説をじっくり確認して解き直すと、設問の意図や文章の読み方をより深く理解することができます。学校の作文だけでなく、定期的に日記をつけることでも書く練習が可能です。最初のうちは1行～3行程度の日記で構いません。慣れてきたら少しずつ量を増やしつつ「Aだと思う。なぜなら、Bだから」といったように、接続詞も含めるようにすれば、論理的思考力の育成につながります。

【勉強法4】日々のコミュニケーションを大切に

国語力を身につけるには、コミュニケーションも不可欠です。コミュニケーションは「話す・聞く」の力が大きく発揮される場面です。子ども自身が自分の感覚や考え方を言葉で表現するとともに、他の人の意見を聞いて考える機会にもなるため、子ども自身の考えがより深まると言われます。

これら4つの勉強法は、あくまで「家でもできること」で、『国語力』の基礎的な部分を養う一例です。入試問題のような応用的な部分を養うには、やはり塾や予備校のような場所での専門的な対策が必要になってきます。そこら辺の書店で手に入れられるような問題集で対策できるほど、甘いものではないことはご理解ください。必要であれば、実際に新傾向の問題をお見せしますし、お困りのことがあれば、いつでも相談に乗ります。是非一度、学習相談等でお問い合わせください。

では最後に、『国語力』の応用的な部分はどうかですが、**私は営業抜きで本気で集団塾での対策をオススメいたします。**専門的な対策はもちろんのこと、継続して勉強をしていくためには「体力」と「モチベーション」が必要不可欠です。「体力」はある程度、誰でもつけることは可能ですが、勉強に対する「モチベーション」は小中学生のうちは、1人だけの力で簡単に上げたり、キープできるものではありません。これを「集団心理」で補うのは非常に合理的な方法です。「他力本願だから賛成できない」と思われるかもしれませんが、むしろ逆です。「モチベーションの上げ方」も経験則に比例します。つまり「モチベーションの上げ方」を「集団」の中で学ぶということです。これにより、高校に入学してからでも「あの時はモチベーションはどうやって上げたっけな？」と思いつくことができたり、試行錯誤・修正したりすることも可能になるのです。そういった意味で非常に合理的だと考えています。

兎にも角にも、百聞は一見に如かずです。書きたいことはたくさんあるのですが、ここには書ききれない、二スコ進学スクールでしか教えていない『国語力』上昇の秘訣もたくさんあるので、今日はここまでにさせていただきます。是非一度、体験しに来てみてください。

まずは体験授業を無料にて行っておりますので、一度体験いただいて教室の雰囲気を感じていただければと思います。詳しくは二スコ本部 [TEL:0120-44-3759](tel:0120-44-3759) までお問い合わせください。